第2分科会　要項（案）

**記 録 用 紙**

テーマ「　指導案の書き方を学びたい方向けの情報交換　」

 日時　令和5年８月２日　 　１３：１５～１４：４５

場所　光明支援学校 小学部校舎 ２階　５－２教室

進行　支援学校仙台みらい高等学園　　　福田　陽香先生

記録　光明支援学校（事務局）　 　　　　 野月　彩夏

＜ 分科会記録 ＞

Q.指導案の書き方の基本的なところとして，「教材観」や「児童観」を書くことが難しい。どこから書き始めていくべきか。

　A1児童観から書いていくといい。

　A2まず第一には生徒・児童の姿。そこから何が必要か考えていくとよいと思う。

　A3宮城県総合教育センター発行の「みやぎ授業づくりガイド」が活用できる。

　A4これまでの実践がまとまっている自校にある実践集などを参考にするのもよい。

Q.初任者研修などで指導案を書く機会があるが，難しい。どのように書き進めていくべきか。

A1授業を組み立てたり，目標を立てたりするにも，まず第一に考えるのは，生徒にどんな力をつけさせたいかだと思う。その力をつけるために授業や指導案も作っていくとよい。

A2 指導案の書き方や様式は，学校によって違うことがほとんど。校内のこれまでの指導案を参考にするとよい。

Q.評価をすることが難しいと感じているが，どのような工夫をしているか。

A1評価しやすいような，具体的な目標を立てるとよい。

　　 例えば家庭科の専門コースの授業では，「にんじんのいちょう切りを２mmでできる」など，数値で評価できるようにしている。

・小学校の支援学級の担任の先生や，支援学校高等学校の先生がいたため，進路や就労先のことも話題に上がった。

Q就労するためにはどんな力をつけていけばよいのか？

A1作業をしっかりできる力はもちろん必要だが，挨拶や態度がより重要視される場合が多い。

A2小学校の段階から，将来の姿を見据えて指導にあたっていくことが大切だと感じる。

― １ ―

話題に挙げたい内容

・「指導案作成の基礎的なところ」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　宮城県立支援学校小牛田高等学園　　　　　　　森谷　櫻子　先生

・「指導案の書き方について」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　明和学園いずみ高等支援学校　　　　　　 　　　　古山　慧斗　先生

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　高橋　美奈　先生

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　支援学校仙台みらい高等学園　　　　　　 　　　　福田　陽香　先生

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　蔵王町立宮小学校　　　　　　　　　　　　　　　　　　橋浦　優香　先生

・「生活単元学習の指導案について」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　多賀城市立多賀城東小学校　　　　　　　　　　　　佐藤　佳代　先生